

**平成 27 年度 第 2 回 清瀬市史編さん委員会
議事要旨**

日 時：平成 27 年 10 月 29 日（木）

午前 10 時～12 時

場 所：清瀬市郷土博物館講座室

出席委員：根岸茂夫、栗山 究、浅倉直美、黒川徳男、高村聡史、和田浩一郎（谷口康浩代理）、
齊藤隆雄、坂間和英、岡田耕輔、黒田一美、小西一午、中澤弘行（12 名）

欠席委員：谷口康浩、齊藤靖夫（2 名）

事務局：企画部長、市史編さん室長、市史係 2 名（4 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 各部会からの中間報告
3. 平成 28 年度各部会事業計画
4. 『(仮称) 市史研究』の内容・仕様等について
5. その他
6. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（平成 27 年度 第 2 回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 平成 28 年度部会事業計画【資料 1】
3. 『市史研究 きよせ』構成案【資料 2】
4. 『市史研究 きよせ』について【資料 3】

《審議経過》

1. 開 会

委員長 これより、平成 27 年度第 2 回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

議題に入る前に、事務局より、資料および進め方についてご説明いただきます。

事務局 （配布資料および進め方について説明）

2. 各部会からの中間報告

委員長 それでは議題に入ります。まず、時代順に各部会から活動の中間報告をお願いします。考古部会
会は本日、部会長の谷口委員が欠席のため、代わって専門嘱託員の和田さんからお願いします。

和 田 考古部会の活動について報告します。考古部会では、既存の発掘資料調査を行っています。刊
行されている遺跡発掘報告書について、今後使いやすくするために、遺跡ごとの報告書の内容
を、時代ごとに遺構と遺物をひとつのシートにまとめるという作業を進めています。中世くら

いまでは整理が終わり、旧石器および縄文時代については、博物館の収蔵物とのすり合わせができる段階にあります。

浅 倉 古代中世部会の活動について報告します。この部会は、約 1200 年に及ぶ時代を扱うので、時代区分を、古代、中世前期、中世後期の 3 班に分けて活動しています。資料集の刊行が最初ということもあり、4 月から 10 月までにすでに 9 回の部会を重ねながら具体的な調査活動を始めています。この時代については新しい資料が出れば新聞の一面掲載記事になるというくらいで、新たな資料発掘は望めませんので、資料集では既に他の市町村の自治体史に掲載された資料を紹介することになります。しかも、古代、中世の資料集は、一般には古文書の書き起こし文で漢字の多い文字ばかりの紙面になりがちです。せめて中学生以上の歴史好きの人に手にとって見てみようと思ってもらえるような、より親しみのある資料集にするためにはどうしたらよいかという視点で、編集方針としては、可能な限り重要文書の写真を掲載し、写真に細かい解説文を添える形にしたいと考えています。市域に直結する資料だけでは限りがあるので、清瀬の歴史に関連するこの時代のテーマとして、悲田処、村上党、山内上杉氏、三田氏、大石氏、北条氏照花押などを掲げ、市域に限定せず範囲を広げてこれらのテーマに沿った資料の調査、収集に努めています。デジタル化されたデータを見るだけではわからないことも多くありますので、実物を見て、話を聞く中で得られる情報を、解説に生かすようにしたいと考えています。関東近県のみならず遠くは安土まで行かせていただき調査を行いました。文書のなかの墨色の違いなど大切な部分で現物を見ないとわからないことがあり、発見がありました。また、文書調査にあわせて現地調査、周辺の写真撮影もできましたので、こうした情報も資料として生かせるという意味で成果の多い出張調査になったと考えています。

また、市内の板碑の調査を清瀬市郷土博物館の協力の下に行いました。

根 岸 近世部会について報告します。近世部会は部会の組織はまだ立ち上っていませんので、部会長でできることを行っています。具体的には、国立公文書館にある江戸幕府の資料の中から旗本の資料など、目についたものを集めている段階です。市内のものは郷土博物館にほとんどあるので安心していますが、例えば上清戸が開発に参加したという野火止開発についての資料が新座にあるなど、周辺市の資料の収集を、所沢、東村山などについても行っていきたいと考えています。

黒 川 近代部会、現代部会では、両部会合同で部会長ふたりが調査を進めています。

まず、明治初期の政府や郡の地域調査資料で活字になっているもの、本、論文にはどんなものがあるかを調べています。

また、市役所にある行政文書目録を見ました。一部、行政文書の古いものが郷土博物館にあるので、それも箱を開けて見せてもらいました。戦前のものもあり、いい資料だと思いました。郷土博物館の収蔵品には、明治から大正にかけて一人の方が書かれた日記があり、これは第一級資料であると思いました。

近現代の場合、清瀬市内だけではなくいろいろなところに所蔵されている行政文書等を見なくてはいけないのですが、国立公文書館と防衛研究所については、今のところいいものが見つかりません。東京府の文書については、膨大な量、清瀬についての公文書が残っていますので、本格的に調査しなくてはなりません。人海戦術で臨むなど、これからの調査が必要と考え

ています。

先日、市史編さん委員会団体代表委員からの聞き取りを行いました。その中で今後の聞き取り調査の対象候補もあがりましてので、まずは戦争体験を中心に聞いていこうと考えています。早速本日10月29日午後、齊藤隆雄委員のご紹介で照空隊のことについてお話を聞く予定です。

高 村 現代部会から補足します。

前の市史に書いてあること、書いていなかったことを再確認しました。戦後についての記述が圧倒的に少ないと認識しています。近い時代のことは扱いつらかったのかもしれませんが、刊行後の市史編さんのことも考慮し、今回は刊行に近いところまでの資料を見ていくことが必要かと考えます。

GHQの占領期の資料のなかには結核予防会に関するものや、引揚のことなど、資料がある所はわかったので、収集していきたいと思いますが、まずは、聞き取り調査を優先して行っていく予定です。

市内のできごとを市内の方に聞き取る他に、例えば清瀬は学童疎開の受入れ地で、青山の小学校の子どもたちが疎開してきており、疎開した側の人からも聞き取りができるとよいと考えています。他に、通信隊のことについて、海軍ですので横須賀でも見ることができますし、自衛隊からも見ていくことができればと思います。

空襲についても、市史の記述は被害記事の視点に立っていますが、米軍の資料には爆撃報告書もありますから、何を標的にしたのかといった別の視点からこうした資料を調べてみることも必要かと思えます。

また、三多摩の民権資料にも、清瀬の関係資料が多くあります。これも調査しなくてはと思います。

小学校の歴史について、各学校にどのような歴史資料があるか市史編さん室の方でアンケート調査をしてくださっていますが、それぞれの校史、沿革史もぜひ見たいと思っています。

委員長 部会報告ありがとうございました。全体を通して、ご質問、ご意見ありますか。

委 員 他市の歴史も見てほしいです。たとえば現在の日高市のあたり。高麗家の江戸時代から明治くらいまでの資料のなかには、修験のことなど、城山のところに来たとか、前の清瀬市史には出てきていませんが、清瀬に関連したことがあります。

3. 平成28年度各部会事業計画

委員長 それでは、次の議題に進みます。平成28年度の事業計画について、各部会から時代順に発表してください。

和 田 考古部会では、資料編作成のための作業を行う計画です。大きく3つの項目に分けて作業を進めていきます。

まず、既に報告されている資料で基本的には博物館に既に所蔵されているものの調査、2番目としては、未公開で、きちんと正式には報告されていない資料の調査、そして3つめは、遺跡の現地調査です。遺跡については、踏査といって、歩いて地上に残っているものを見ていく、という調査をします。

既に報告されている資料については、刊行物の記載と郷土博物館の収蔵品（現物）との照らし

合わせを行い、資料編に載せるべきものの選定をします。この過程で、その資料についてできる新たな分析ができないか、たとえば土器について「おこげ」から年代測定ができないか、といったこともチェックします。

また、報告書が古いものについては、必要に応じて再度の実測、写真化による再資料化も考えます。これを来年度前半に進めていき、後半に外部に委託して実測や写真撮影、あるいは再来年度に向けて理化学的な分析を考えていきたいと思っています。

未公開資料の掘り起しも行っていきます。ひとつは、個人やお寺で持っていらっしゃる資料などについて。また、調査書が出ていないものについての調査が必要です。また、報告されていても市内に所蔵されていない資料、たとえば「こわしみず」に関しては、前の市史に図面が載せられていますが、実物は市内にありません。東京都が調査をしたもので、湾岸の倉庫に保管されているらしいという話ですが実際どこにあるのか、どういう状態かわかりません。市史の掲載以外にはきちんとした発掘調査報告書は出ていません。場合によってはこちらも実測図などをもう一度作り直すことが必要になってくるかと思えます。市内では貴重な旧石器時代の遺物が出ておりますので、追跡調査が必要と考えます。

現地踏査に関しては、東京都の遺跡地図では、清瀬市内には 77 か所の遺跡があるとされていますが、調査されたところも古く昭和 40～50 年代前半の調査ですし、大半が未調査個所で、現状の確認が必要です。加えて未確認箇所が他にもあるかもしれませんので、踏査の際に調べたいと思います。踏査の対象は時代を限らないつもりです。防空壕など、きちんと知られていないものの存在について、どの部会で資料化するかについては、各部会と調整していきたいと思えます。

また、平成 29 年度に古環境調査でボーリング調査をしたいと考えていますので、平成 28 年度には採取地を決めるための予備調査で市内をまわる予定です。

浅 倉 古代中世部会では、平成 28 年度も古文書調査、板碑調査を続けます。古文書調査では、170 点くらいあるといわれる北条氏照の花押を集めたいと思っています。また、板碑の調査では、この分野の専門の方に加わってもらって調整しています。

根 岸 近世部会では、平成 27 年度中に部会の組織を立ち上げ、平成 28 年には調査をスタートさせたいと考えています。まず、市内の古文書調査ですが、郷土博物館収蔵資料の近世資料を 1 点ずつ現物確認し、掲載に値する資料は新たにデジカメで撮影し、必要なものは翻刻するという作業を行います。収蔵資料だけでなく、新たに収集された渋谷家の文書資料、上清戸の村野家の資料についても、同様に進める予定です。

資料収集、執筆をめざして活動してまいります。

黒 川 近現代部会では、戦争体験の聞き取りを最重要課題として続行します。市民の方からの資料収集を進める他、新聞記事の収集も行おうと思っています。新聞の全国版記事と異なり地方版の記事はインターネット検索ができないので、集中した作業が必要です。近隣の図書館などで地方版の記事を集めているところがないか調べていただけると助かります。

先行研究ならびに資料集の調査は引き続き行います。

郷土博物館、図書館の所蔵資料の調査、ならびに、公文書の調査も予定しています。都や近県、国の公文書調査となると、資料の複写が必要なのですが、調査に必要なコピー費用、交通費に

ついて事務局にご検討いただきたいと思ひます。

国会図書館憲政資料室のプランゲ文庫は、GHQ の検閲にかかった図書や雑誌を集めたものですが、団体の機関誌などが収められており、清瀬に関するものがあつて、調査対象として興味深いと思ひています。

ほかに、来年度後半に近現代の石碑の調査を行います。

高 村 また、遺構としての防空壕、特殊地下壕というのですが、構造を知りたいと思ひています。戦後、防空壕は、埋めるか崩すようにという指示が出されているのですが、そのために 40 年代ごろに調査されているはずで、調べてみたいと思ひています。

新たな資料収集も課題です。歴史の資料というとお宝のようなものといったイメージをお持ちの方も多いのですが、コピー、写真、テープなども資料になるので、こうしたものの提供を市民対象に何度も行ってほしいです。また、提供を受けるときのことですが、資料を借りるのであれば、写真を残すだけでよいのか、また事後の返却を考えなくてはなりませんし、寄贈であれば、保存はどうするのか、いずれにしても扱いについて費用のことも含めて検討しておく必要があります。

資料収集について、もうひとつお願ひしたいのは、歴代の首長、議員の方のお宅に資料がないかきいてもらいたいのです。予算書など役所の資料を持ち帰ってそのままになっているものはないか、中には役所にないものが蔵にあることもありますから。こうした資料はぜひ収集したいです。

それから、8 ミリフィルムも、収集対象として考えてほしいと思ひます。昭和 30 年代 40 年代のフィルムは劣化が心配ですので、集めて保存できればと思ひます。

委員長 いろいろな課題も出されましたが、なにかご意見、ご質問ございますか。

委 員 郷土博物館に所蔵されている古文書で、リスト化されていないものがあります。以前、委員長がリストを作られています、そこに漏れているものがあり、私が 5 年くらいかけて調査したのですが、素人の作業で適切な分類などができていません。表題と年号など、を一覧表にしてあります。それらについての中身は調査されていないと思われまふ。その一覧にも入っておらず手つかずのままの文書や地図もあります。古い資料で素人が手をつけると破損する可能性があつたので、手をつけずそのままにしてあります。ぜひ一度先生方に見ていただいて、価値について判断していただきたいと思ひています。

もう一点、資料提供については、9 月末に神社の総代会があり、呼びかけましたが、埋設物については色よい返事はありませんでした。鋤で耕していた時代とは違ってトラクターを使う時代になりましたから、以前のような発見は難しいと思われまふ。

お願ひがあるのですが、資料の収集について、「こういうものがあれば」といった例示を文書にしてもらえると呼びかけやすいので、用意していただきたいです。注意喚起のためにも有効だと思ひます。

委 員 情報収集という意味では、ききとりについても「こういうことをききたい」という質問集を用意してもらえれば、代理にききとりができる。それをもとに大切な事項については先生方にきいてもらう、といったことができます。

黒 川 ききとりについては、自宅で話すのがいいという人もいれば、どこかほかの場所がいい人もい

るなどいろいろな人がいますから、そのケースごとに合った形で対応を考えたいと思います。

委員長 他にご質問、ご意見ないようでしたら、次の議題に移ります。

4. 『(仮称) 市史研究』の内容・仕様等について

委員長 『(仮称) 市史研究』の内容・仕様等について、まず事務局からご説明ください。

事務局 (資料2、資料3に基づき、説明)

委員長 ご質問、ご意見ありましたらどうぞ。

委員 論文について市民からの投稿も受け付けるとなると、審査がたいへんです。「論文」の一定スタイルの提示も必要になりますし、論文として掲載しない場合の対応として、研究ノート、レポートといった形で掲載する方法も考える必要があるかもしれません。投稿したものが没になるとショックですし、揉め事になることもあります。混乱を避けるために、横須賀など市民投稿の枠を設けない自治体もあります。

委員 市民代表として委員の声も取り上げてほしいと思い、書いて用意したものがありません。ひとり1ページでも我々にも書ける場所を設けてほしいです。

委員 ページ数の都合もありますから、ひとり1ページとれるかどうかは相談が必要ですが、「論文」というくりではなく、短文でもせつかなので皆さんに書いてもらったらどうでしょうか。

事務局 市史研究は、市史編さんに関する研究の成果を知らせることを第一義と考えますので、委員の方々のメッセージが巻頭に一定分量掲載されるというのはいささか違うものになるかと思えます。創刊号では、市史編さん事業のスタートをお知らせすることを主眼とし、市民の声の反映は第2号以降で考えたいと思います。

委員 市史研究というからには、客観性が必要だと思います。個人の投稿をベースにすると、思い違いも入ったり、美化されることも入りますので、学術的なものにはなじまない気もします。個人の意見を入れる、ということになると文献を調べてしっかりしたものにしなないと、いいかげんなことを書きかねない。これをどう考えるか。たとえば冊子本体への掲載ではなく、はさみこみ、附録といった形なら客観性について少しこだわらずに済むかと思えます。刊行物の性格をはっきりさせておくべきでしょう。

副市長 市として出すものですから、内容を精査してしっかりしたものを、と思います。

委員長 紙幅のこともあるので、ここで決めず、出された意見を参照しながら対応するというところでよろしいですか。

委員 了承

委員 情報提供の呼びかけについてですが、校長や図書館長など、身近な人が呼び掛けると効果があると思います。HPなどに呼びかけのメッセージを載せたらどうでしょう。気運が盛り上がると思います。

委員長 貴重なご提案ありがとうございます。

5. その他

委員長 次に、清瀬郷土研究会の取り組みについてお話し願います。

岡田 団体代表委員で郷土研究会会長の齊藤靖夫さんが本日委員会欠席のため、同会理事の岡田が代

わりましてご報告いたします。

清瀬郷土研究会は35年活動を続けており、毎年、郷土のことについて研究成果を市民文化祭で発表してきました。今年は、市内の蔵について調べようということで、6月に調査を始めました。市内には73棟の蔵があります。構造を調べたり、写真撮影、聞き取り調査も行いました。手分けして調査をしまして、聞き取りには小西委員も参加されました。中里の中村家、渋谷家には古文書と地図がありました。中里の関家には「こて絵」(漆喰を用いて鏝で壁面に描いた立体画)のある土蔵がありました。我々も初めて聞き取り調査を行いました。家によっては外部者や女性は蔵の中に入れない、という家訓のようなものがあり、奥様方に話をお聞きしようと思ったら、これまで入ったことがないと言われた所もありました。じっくりお話を聞かせていただけたところでは古文書や地図が出てきた蔵もあり、市史編さん室で資料をお預かりいただいているものもあります。調査の成果は市民文化祭のパネル展示で発表します。今後もまた古い文書などがでてくるのではないかと期待しています。

もう一つの活動は、「清瀬を歩こう会」の発足です。市内のことをもっと市民に知ってもらいたいという思いから、郷土研究会会員と市内を歩く「清瀬を歩こう会」を企画しました。11月7日に松山・竹丘・梅園地域を、12月12日に上清戸・元町地域を散策する予定です。

この活動は、郷土研究会の会員だけでなく、市民とも交流しつつ実施するもので、市報と市民活動ニュースで広報しました。今後も続けていきたいと思っています。

委員長 この件、ご質問、ご意見などありませんか。

よろしいでしょうか。郷土研究会のみなさまにはぜひこれからもご活躍いただきたいと思えます。

では、最後に事務局から次回委員会の予定についてお話してください。

事務局 平成27年度第3回委員会は、3月開催を予定しています。3月15日から25日の間で委員のみなさんのご都合を伺って決めたいと思っておりますので、ご予定ください。

6. 閉会

委員長 それではこれで、平成27年度第2回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。

【資料 1】

平成 28 年度
部会事業計画

■ 考古部会

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
既報告資料基礎調査	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館収蔵資料調査(調査員雇用) 出土資料の確認・選定 再資料化の要不要の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館収蔵資料調査(調査員雇用) 出土資料の確認・選定 再資料化の要不要の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館収蔵資料調査(調査員雇用) 出土資料の確認・選定 実測・写真撮影(外部委託) 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館収蔵資料調査(調査員雇用) 出土資料の確認・選定 実測・写真撮影(外部委託)
未公開資料調査等	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・市外所蔵資料の追跡調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・市外所蔵資料の追跡調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開資料調査 資料の確認・記録・選定 実測・写真撮影(外部委託) 	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開資料調査 資料の確認・記録・選定 実測・写真撮影(外部委託)
遺跡現地踏査	<ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査 未調査遺跡の確認と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査 未調査遺跡の確認と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・古環境調査(地形地質調査、花粉分析)のための予備調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・古環境調査(地形地質調査、花粉分析)のための予備調査
文献収集				
資料編基本構成についての検討				
考古部会打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・部会全体会議 		<ul style="list-style-type: none"> ・部会全体会議 	

■ 古代中世部会

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
実踏調査 ・八王子城・滝山城 ほか 板碑調査 古文書調査 ・米沢市上杉博物館 ・千葉県立文書館 ・小山市立博物館 ・群馬県立歴史博物館 ・仙台市博物館 ・あきる野市阿伎留神社 ・茨城県立歴史館 ・土浦市立博物館(臼田家) ・お茶の水図書館 ・鎌倉国宝館 ・国立公文書館 ・奥多摩町原島文書 ほか 編集会議 ・収録史料の選定 ・解説の具体化 ・体裁・書式の検討	実踏調査 ・滝山城 板碑調査 古文書調査 編集会議 ・全体会議(4月) ・古代班(6月) ・中世前期班(5月) ・中世後期班(5・6月)	実踏調査 ・小山市域 古文書調査 編集会議 ・古代班(8月) ・中世後期班(7・8・9月)	実踏調査 ・青梅市域 ・あきる野市域 古文書調査 編集会議 ・全体会議(10月) ・古代班(10・12月) ・中世後期班 (10・11・12月)	実踏調査 ・八王子城 古文書調査 編集会議 ・古代班(2月) ・中世後期班 (1・2・3月)

■近世部会

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市内資料確認調査	月1回×3 博物館収蔵史料調査撮影	月1回×3 博物館収蔵史料調査撮影	月1回×3 博物館収蔵史料調査撮影	月1回×3 博物館収蔵史料調査撮影
翻刻作業	5日分×3 翻刻作業を日数換算	10日分×3	15日分×3	15日分×3
資料編構成の検討				月1回×3

■近現代部会

作業項目	第1四半期(4月～6月)	第2四半期(7月～9月)	第3四半期(10月～12月)	第4四半期(1月～3月)
市民からの聞き取り、資料収集 新聞記事収集等 先行研究、資料集等調査 博物館、図書館所蔵資料調査 "市役所公文書、都(近県、国) 公文書館調査" 近現代金石文調査	市民からの聞き取り、資料収集 先行研究、資料集等調査 博物館所蔵資料調査 東京都公文書館調査	市民からの聞き取り、資料収集 先行研究、資料集等調査 博物館所蔵資料調査 東京都公文書館調査	市民からの聞き取り、資料収集 新聞記事収集等 博物館所蔵資料調査 東京都公文書館調査 近現代金石文調査	市民からの聞き取り、資料収集 新聞記事収集等 博物館所蔵資料調査 東京都公文書館調査 近現代金石文調査

『市史研究 きよせ』 構成案

- 1 表紙（2色・モノクロ写真入り）
- 2 目次
- 3 発刊に寄せて（清瀬市長 渋谷金太郎）【1頁】
- 4 市史編さんに向けて（清瀬市史編さん委員会委員長 根岸茂夫）【5頁】
- 5 論文（古代中世部会）【15頁】
- 6 『清瀬の昔を聞く』（聞き取りの記録）【2本/35頁】
- 7 活動報告（古代中世部会）【2～3頁】
- 8 市史編さん覚書【6頁】

『市史研究 きよせ』について

1 目的

本誌は、市民の皆さんの市史編さん事業に対する理解と地域の歴史に対する関心の高揚を目的に、市史編さん事業実施に伴う調査研究成果の報告、関連論文、資料紹介等を織り交ぜて編集し、毎年一回刊行する。

2 主な掲載内容

- (1) 市史編さんに関連する論文等
- (2) 市史編さん作業を進めていく上で見つかった新たな歴史的資料
- (3) 市史編さん事業の進捗に関わる記事
- (4) 市史編さん事業に対する市民からの声等
- (5) その他市史編さん事業の推進に資すると考えられる記事等

3 論文等掲載にあたっての基本的考え方

【主要掲載基準】

- 市史に関する情報の提供を促す内容のものであること
- 発掘、巡見等、実体験に基づくものであること
- 論拠が明確で、新たな見解が含まれたものであること

※ 投稿論文等の掲載にあたっては、事前に清瀬市史編さん委員会委員長、副委員長、各部会長による審査を行い、決定することとする